

# おかえり

特集

## ◆導かれるように、匹見へ

森林資源を活かし  
自立した暮らしを提案したい

- ひきみ瓦版
- 交流から滞在、そして定住へ
- 定住アドバイザー
- 空き家に関する各種事業



## ～交流から滞在、そして定住へ～

### ちよこっと匹見を体験したい方は…

◇農家民泊…匹見町には、2軒の農家民泊があります。農家に泊って、のんびりゆったり過ごしてください。

うつだに

### 農家民泊「内谷とちの郷」

#### 《体験内容》

ワサビの苗植え・収穫体験、山菜採り、料理体験（こんにゃく、ワサビの醤油漬けなど）、もちつきなど

■体験料 1泊2食 5,000円

■益田市匹見町石谷口561

Tel/Fax. 0856-56-0589



### 民泊「三四四」

#### 《体験内容》

ものづくり体験（布ぞうり、かご編みなど）、山菜採り、田舎料理体験、春・秋農業体験など

■体験料 1泊2食 5,000円

■益田市匹見町道川1214

Tel/Fax. 0856-58-0020

### ◇田舎体験

匹見町では登山や川遊びなど、豊かな自然を生かした体験をはじめ、「食品加工体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」、「神楽体験」などを楽しむことができます。詳しくは、ひきみ田舎体験推進協議会ホームページ（<http://www.town.hikimi.shimane.jp/inakataiken>）をご覧下さい。

### もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。

#### 《使用者の条件》

- (1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
- (2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

#### 《使用期間》

1ヵ月以上3年以内

#### 《使用料》



施設区分	戸 数(空き戸数)	使用料(月額)
単身用(1DK)	2(0)	8,100円
世帯用(3DK)	2(1)	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。

#### 《使用について》

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の人は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出ください。

(詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。)

### 匹見への定住をお考えの方は…

#### ◇就業支援

益田市外から移住し、農林水産業へ就業することを目的として産業体験を行う人に、「益田市農林水産業就業支援助成金」制度による支援策で、就業と定住を支援しています。

#### ◇住まい

空き家や公営住宅をご紹介します。

#### ■空き家に関する各種事業■

#### 空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。

この制度は、空き家を販売あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方が増えています。匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

#### 益田市空き家改修事業

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、その住宅を改修した際の経費の2分の1以内(上限50万円)を補助します。ただし、経費の額が50万円以上であるものに限りません。

### 定住・UIターンに関する問い合わせ先

#### 益田市匹見総合支所地域振興課

〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260

電話 0856-56-0301

FAX 0856-56-0362

ホームページ <http://www.town.hikimi.shimane.jp/>

# 導かれるように、匹見へ

今年4月、神奈川県相模原市から益田市匹見町内谷へ、導かれるように移り住んだ高濱徹さん(55)・実樹恵さん(42)夫妻。「匹見には、時代の流れに取り残されたが故に、大事なものが残っている」と言う。

自給自足的生き方を摸索。そして益田へ  
きつかけは、3月の東日本大震災と原発事故だった。  
実樹恵さんは、両親と自家菜園無農薬野菜を出す蕎麦屋を經營していたが、放射能汚染を懸念し、3月半ばに休店。そのこ



## 森林資源を活かし、自立した暮らしを提案したい。

る徹さんは、時の故障で林業の仕事を1ヶ月程休んでいたため、益田市の知人宅を訪ね、しばらく滞在することになった。

かつて、先端技術研究分野に長く関わっていた徹さんが、「哲学を持たず、人も地球も幸せにしないテクノロジー」に疑問を感じ、地に足のついた現

代的な自給自足的生き方を摸索。いずれは山奥で暮らしたいと、移住先を調べていた。

そんなときに訪れた益田市。出会った人々の人柄や自然環境などが入り、2人はこの地で暮らしたいと決意する。

### 縄文人の魂を受け継ぐ匹見

住居と仕事探しは難しかつたが、益田市のHPで空き家バンクに一軒だけ残っていた匹見の物件に惹かれ、見せてもらうことに。益田市街からの道すがらの景色と、出会った匹見の人々が好きになり、仕事が決まつていなまま引越しを決意。

築50年の格安貸家は、土間や蔵、納屋付き。棚田や畑、沢が流れる山もあり、まさに「縄文人の魂」が宿されている。

### キーワードは、自給は自衛。

まもなく、仕事も見つかった。徹さんは、5月から「地域力アップ応援隊員」(注)として、匹見下地区振興センターに勤務。実樹恵さんも、近所のナメコセンターへパートで出かけている。

地震がなければ、匹見に来ることもなかつた2人。今後、匹見の豊かな森林資源を都市部の人たちとスクランブルを組んで活かし、万が一の社会変動の際にも自立した暮らしができる安心な地域づくりを提案。

「自給は自衛」というキーワードの下、縄文的精神を生かせる「縁をいただいた匹見のお役に立ちたい」という思いでいっぱいだ。



2人の“新居”。深い山に囲まれた集落の行き止まり。すぐ脇に沢が流れている。

り、まさに探し求めていた場所だつた。

移住後、朝から晩までよく働き、丁寧な仕事をする匹見の人々の人柄や暮らしぶりに改めて感動する2人。

匹見は、「縄文銀座」と呼ばれるほど、数多くの遺跡が出土し、発掘調査から、皆で支え助け合って暮らしていったことが明らかになつていて。その互助と

自立の精神は、今も息づく。

「一万年以上も大きな争いがなかつたという、世界に類例のない縄文人の魂を受け継ぐ匹見の方々に、自分たちの素晴らしい生き方を再認識してもらい、また、引き継ごうとする人々に生き様を伝えていってほしい」と願う。

を伝えています。

「縁をいただいた匹見のお役に立ちたい」という思いでいつ

ぱいだ。

※(注)…益田市では平成23年度より、総務省の過疎地域等における集落対策の制度である「集落支援制度(特別交付税措置)」を活用し、「地域力アップ応援隊員事業」を実施している。

地域力アップ応援隊員は、住民の連携および住民と行政の協働を推進し、地域の魅力や特色、独自性を活かした地域づくり活動、住民自治の確立を支援する事業の担い手として期待されています。

これまでの見方を考え直す必要がありますが、山崎遺跡(澄川地区)の発掘調査で、新発見がありました。

「土器埋設炉」は、これまで東日本や九州での発掘事例はありませんでしたが、中四国ではわずか1例だったため、東から西への一方的な文化の伝播と考えられていました。

しかし今回、島根県下で初めて、土器埋設炉を伴う住居跡が匹見町で発見されたことにより、

これまでの見方を考え直す必要がでてきたと言われています。

上地区振興センターで展示していますので、「写真」、「来場ください」。問い合わせは同センター(電話0856-56-1144)です。

土器埋設炉のほか、今までにない特徴がみられる山崎遺跡の発掘成果を、8月31日まで匹見町で展示しています。

「道川は顔見知りが多く良い人ばかりで気に入っています」。

「今後も道川出身の方に声をかけ、サロンに来て昔話をなどをします」。



問い合わせは匹見下地区振興センター(電話0856-56-0910)。

匹見町には数多くの縄文遺跡がありますが、山崎遺跡(澄川地区)の発掘調査で、新発見がありました。

「土器埋設炉」は、これまで東日本や九州での発掘事例はありませんでしたが、中四国ではわずか1例だったため、東から西への一方的な文化の伝播と考えられていました。

しかし今回、島根県下で初めて、土器埋設炉を伴う住居跡が匹見町で発見されたことにより、

## ひきみ瓦版

参加の輪広がる高齢者サロン「きばらしの家」「三の滝」



高齢者の閉じこもり防止と生きがいづくりを目的に、平成21年7月、匹見町道川地区元組を開所した、高齢者サロン「きばらしの家」「三の滝」。地元女性4人が担当手となり、体操や食事会、健康教室などを行つています。当初は、主に元組在住者が対象でしたが、最近は地元出身者も訪れるようになります。

津島三四子さん(71)もその一人。かつて道川で暮らし、長年広島で生活していましたが、平成18年から道川に住み始めました。「道川は顔見知りが多く良い人ばかりで気に入っています」。発起人の三好成子さん(73)は、「今後も道川出身の方に声をかけ、サロンに来て昔話をなどをします」。

今年度を持ちまして、益田市顧問並びに匹見地域協議会会长を辞めました。匹見地域の皆様には格別のご厚情とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

平成23年3月31日 退任

齊藤惟人

益田市顧問並びに匹見地域協議会会长の交代がありました。

【退任】

今年度を持ちまして、益田市顧問並びに匹見地域協議会会长を辞めました。匹見地域の皆様には格別のご厚情とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

平成23年4月1日 就任



このたび、益田市顧問、匹見地域協議会会长を辞めました。生まれ育ったこの匹見地域の発展と住民の福祉向上のため、全力で取り組んでまいります。皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

藤谷一剣